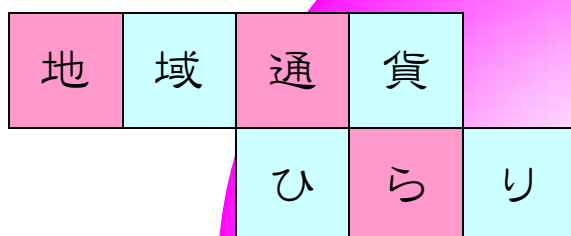


きらりひらかた市民会議

まちづくりプラン 提案書



2008年9月

特定非営利活動法人

ひらかた地域通貨きらりの会

§ 基本的な考え方

ひらかた地域通貨ひらりの会は、「まちづくり」を次の3つの視点で取り組んでいます。

1. 主体的取り組み...人と人とのつながりを拡大することによる元気な地域づくり
“ちょっとしたお手伝い”を通じて希薄になった人と人とのつながりを醸成し、「元気な地域づくり」を目指します。
2. 間接的取り組み(1)...「ひらり」活用によるボランティアのモチベーション喚起と活動促進
私たちが保有する資源・地域通貨ひらりは、それ自体を目的とするのではなく手段として活用することによって、「まちづくり」の多様な場面で効果的に貢献できます。
3. 間接的取り組み(2)...「ひらり」の使用促進による協賛小売店の活性化
“ちょっとしたお手伝い”やボランティア活動のお礼に使われた「ひらり」を協賛小売店の販売促進ツールとして活用することによって商店街の活性化効果をあげることができます。

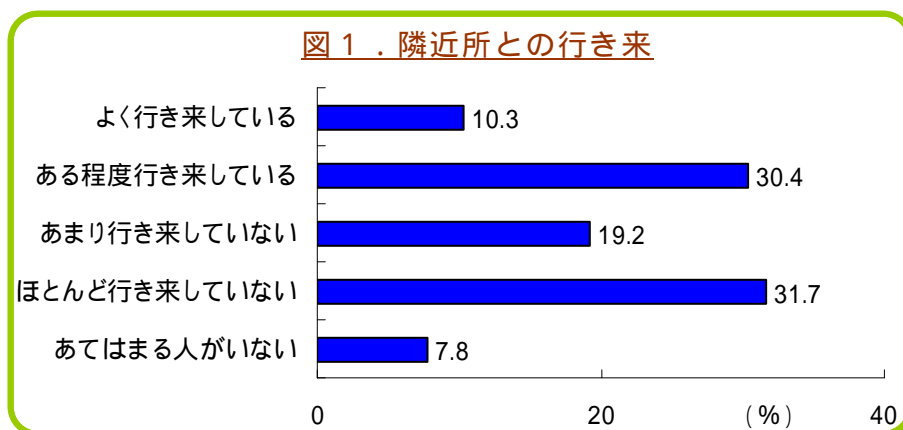
1. 人と人とのつながりを拡大することによる元気な地域づくり

ひらりの会とは

ひらりの会は、“ちょっとしたお手伝い”をしてもらいたい人がお手伝いしてくれた人に、感謝の気持ちを込めて渡す紙券の通貨ひらりを発行して、そのお手伝いのやりとりのコーディネートやお手伝いの拡大をミッションの1つにしています。

隣近所と行き来のある人は約40%

その背景は、図1にみられるように「隣近所との行き来がある人」は約40%と半数を下回るような状況になっており、隣人に対する無関心が近年広がりつつあることです。



資料：内閣府「国民選好度調査」2007年

このままでは自治会などの多くの地域活動が停滞し、地域の元気や活力が失われていくことは必至であり、それを食い止めることが「まちづくり」にとって緊急の課題であるといえます。

元気な地域づくり

私たちは、このように希薄になりつつある人間関係を、「ひらり」を潤滑油にした“ちょっとしたお手伝い”のやりとりによって再生し、元気な地域づくりに取り組んでいます。

「ひらり」が使われている事例

例えば、室内の掃除、庭の草取り、植木の水やりなどの「家事」、絵手紙やギターの指導など「趣味」、障害児の送迎、高齢者の手紙代筆、話し相手などの「ケア」、などなど。ここには書ききれないほどの多種多様なお手伝いのやりとりや助け合いが行われ、その時にお礼の「ひらり」が手渡されています。一様に、「ひらり」を差し上げる人ももらう人も笑顔がこぼれています。そこに新しい“人と人のつながり”が生まれていることを、私たちは確信しています。

「ひらり」の今後の課題

身近な“ちょっとしたお手伝い”の気軽なやりとりから生まれる豊かな交流や温かな気持ちは、元気な地域を作り出す源ですが、残念ながら、「ひらり」の認知度や利用登録者はまだまだ低いレベルであり、活動エリアも限られています。

今後は、さらに利便性の高い「ひらり」を目指して市内全域に「ひらり」が普及・拡大することに取り組んでいきます。そして、それこそが私たちの「まちづくり」であると考えています。

《 「ひらり」が使われている事例 》

家事をしてもらったお礼に

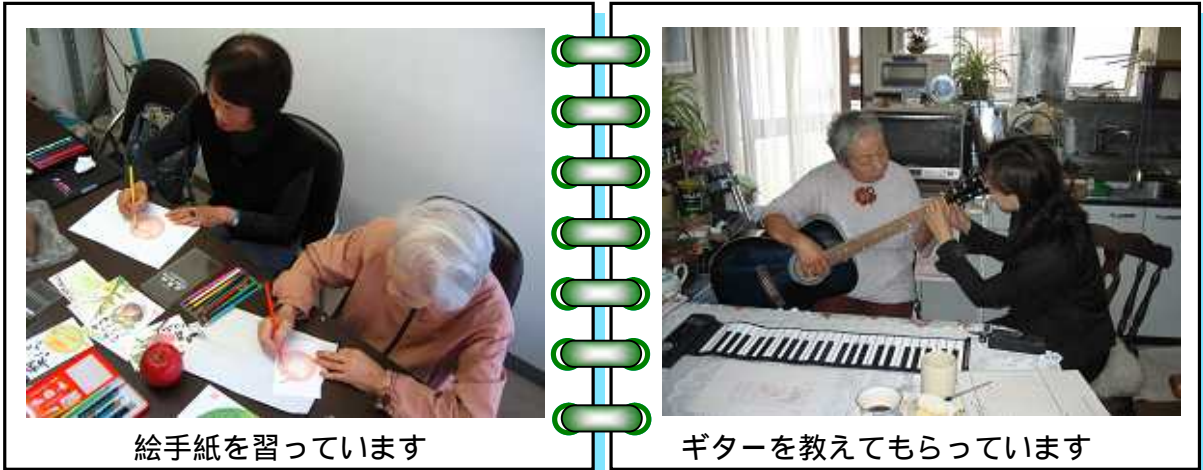


室内の掃除



植木の水やり

趣味を教えてもらったお礼に



ケアのお礼に



2. 「ひらり」活用によるボランティアのモチベーション喚起と活動促進

手段としての「ひらり」

次に、私たちが保有する資源・地域通貨ひらりを「まちづくり」の目的としてではなく、手段として活用することができれば、私たちは、間接的に「まちづくり」に参画してその推進に大きく貢献することができます。

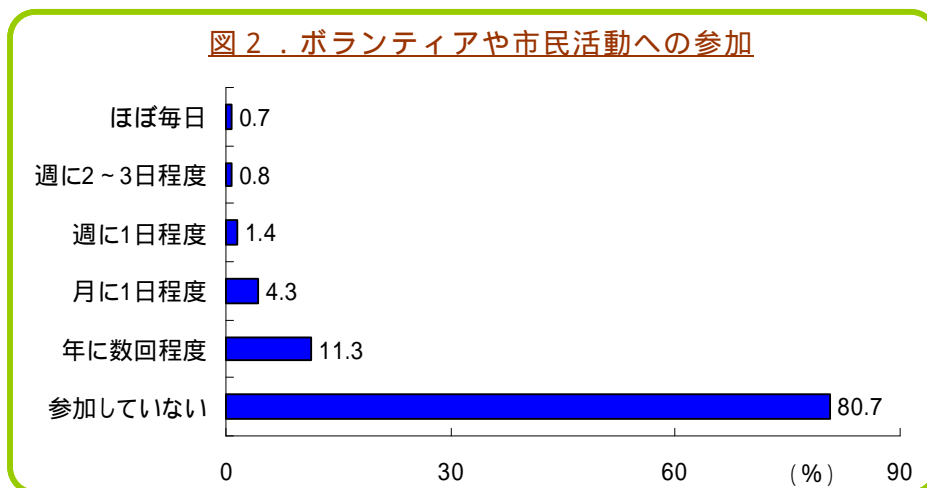
「ひらり」をボランティアのモチベーション喚起に

きらりひらかた市民会議の参画団体はじめ市内の各種市民団体、そして行政や企業などが取り組む「まちづくり」の多様な場面において、それを支えるあるいは推進するボランティアや市民に対してモチベーション喚起とお礼に「ひらり」を使うことができれば、「まちづくり」の促進効果を高めることができるのではと考え

ボランティア活動への参加状況

ています。

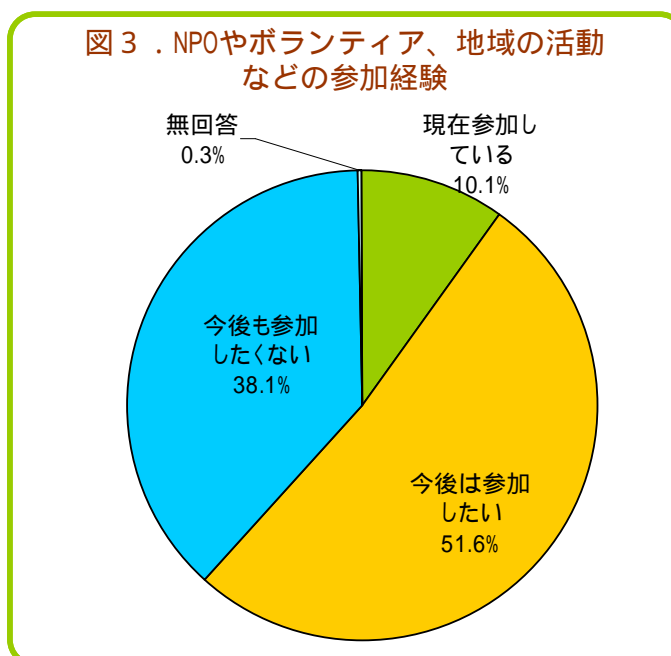
最近では地域活動や NPO 活動の話題がマスコミを賑わすことが増えてきましたが、前掲の国民選好度調査(2007年)によると、「NPOなどのボランティア・市民活動」への参加頻度は、「少なくとも月に1日以上」参加している人は1割にも満たない実態が浮かび上がっています。他方、8割の人は「参加していない」と回答しており、話題性の割にはボランティアの参加実態は極めて低いレベルに留まっています(図2)。



資料：内閣府「国民選好度調査」2007年

ボランティア参加意向

また、質問方法は異なりますが、「NPO やボランティア、地域活動などに参加したことがあるか」を2003年の国民選好度調査においても質問しています(図3)。



資料：内閣府「国民選好度調査」2003年

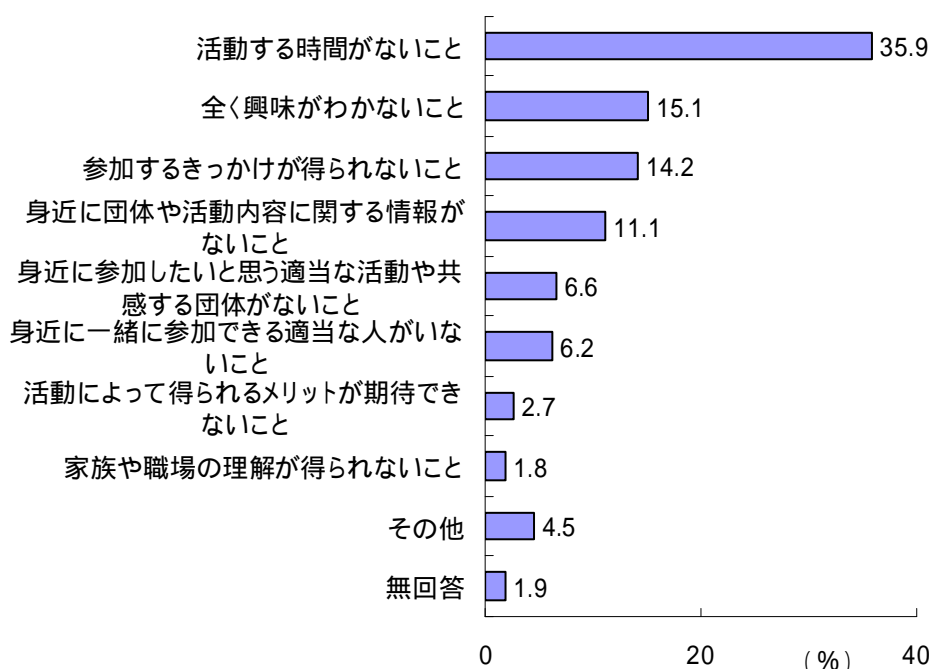
ボランティア活動を妨げている要因

その結果は「現在参加している」が1割程度に過ぎず、2007年の結果とあまり大差がみられません。

問題は、2003年時点で「今後は参加したい」が51.6%と半数に達してNPOやボランティア活動への参加意欲がひじょうに高い結果が出ているにもかかわらず、それから4年を経た2007年においても「参加する人」が顕著に増えていないことです。

2003年調査では参加を妨げている要因について質問をしています(図4)。その最も多い要因が「活動する時間がないこと」(35.9%)、次いで「まったく興味がわからないこと」(15.1%)、「参加するきっかけが得られないこと」(14.2%)、「身近に団体や活動内容に関する情報がないこと」などが続いています。

図4. 地域活動などを妨げている要因



資料：内閣府「国民選好度調査」2003年

注目すべきは、要因のほとんどが情報不足によるものであるということです。つまり、ボランティア活動に関する情報を提供し、参加へのモチベーションを喚起するならば、それは大きく伸びる可能性がひじょうに高いことを示唆しています。

まちづくり参画団体における「ひらり」採用を

ひらりの会は、今回のきらりひらかた市民会議参画の市民団体をはじめ行政、企業などと連携し、このような潜在的ボランティア

層を「ひらり」の活用で顕在化できればと考えています。

その結果、「まちづくり」への参加が促進され、また活動の潤滑油としての役割を果たすことに貢献できると考えています。

さらに、重要な役割はお礼に使われた「ひらり」が「まちづくり」に取り組む団体間を循環することによって大きな相乗効果を生みだすことです。ひらりの会はそのための運営・管理の役割を確実に行っていきます。

既にいくつかの団体で実証済み

もちろん、「ひらり」を活動の促進剤として導入するに当っては費用など諸々の条件や課題の整備と検討が必要なことはいうまでもありません。しかし、既にいくつかの団体では「ひらり」をボランティアのお礼として採用し、その活動の成果を上げています。私たちは、このような前例をもとに効果的で価値のある「まちづくり」に取り組むために前向きに協力していきたいと考えています。

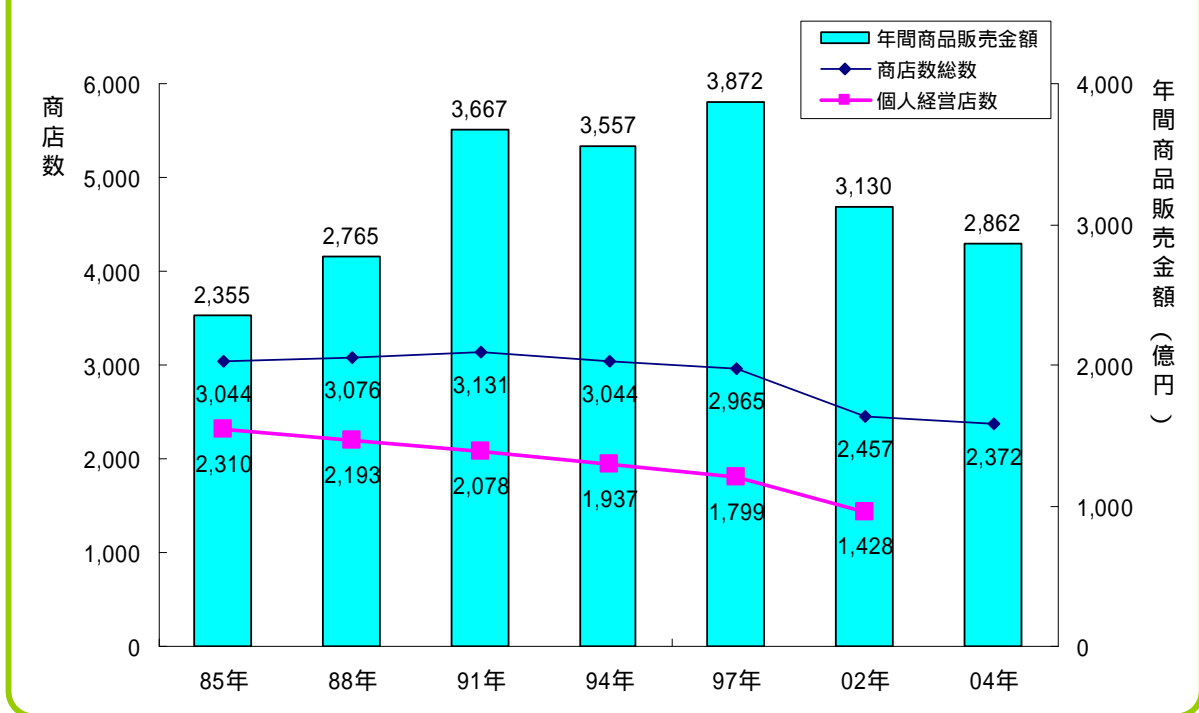
3. 「ひらり」の使用促進による協賛小売店の活性化

地元商店街の低迷

地元商店街の沈滞・低迷は、商業統計を見れば一目瞭然です。枚方市内の小売店数は1985年では3,044店舗でしたが、2004年には2,372店舗と77.9%まで減少してしまいました。特に看過できないのは個人営業の店舗数が2,310店舗から2002年は1,428店舗（2004年は未公表）へと6割強まで激減していることです（図5）。他方、年間商品販売額は、日本経済のバブル破裂後から景気回復したといわれる1997年にピークを迎え、その後、下降線を辿っていますが、それでも1985年の2,355億円から2004年には2,862億円と20%も伸びています。それにもかかわらず店舗数が減少していることは大資本による巨艦型店舗やチェーン店の寡占化が進んでいることを如実に物語っています。このまま地元小売店の減少が今後も進めば、市内から賑わいと活気が失われ、元気な枚方はほど遠いものとなることは必至です。

“シャッター通り”ということばが生まれたのは20年ほど前ですが、このようなトレンドは枚方市に限ったことではなく、全国の商店街共通の深刻な悩みであり、一朝一夕では解決できない問題であることはいうまでもありません。

図5. 枚方市の商店数と商品販売金額の推移



資料：大阪府総務部統計課「商業統計調査結果表」(枚方市のホームページから)

地域が元気になるには

それだけに「地域が元気になるために期待する施策」(地方再生に関する特別世論調査：2007年内閣府)として「商店街の活性化対策や中心市街地の活性化」が「福祉・医療の充実」「防犯、防災対策の充実」に次いで3番目に上げられており、多くの住民が行政に期待するのも納得できます(9ページの図5)。

ひらり協賛店で買い物を

きりひらかた市民会議参画団体はじめ行政や企業などにおいて「ひらり」が採用され幅広く普及・流通し、市内のひらり協賛店で買い物に使われるならば、その金額は決して小さくなくても商店街の客数増、購買頻度増、など販売促進効果は無限に拡大していくでしょう。

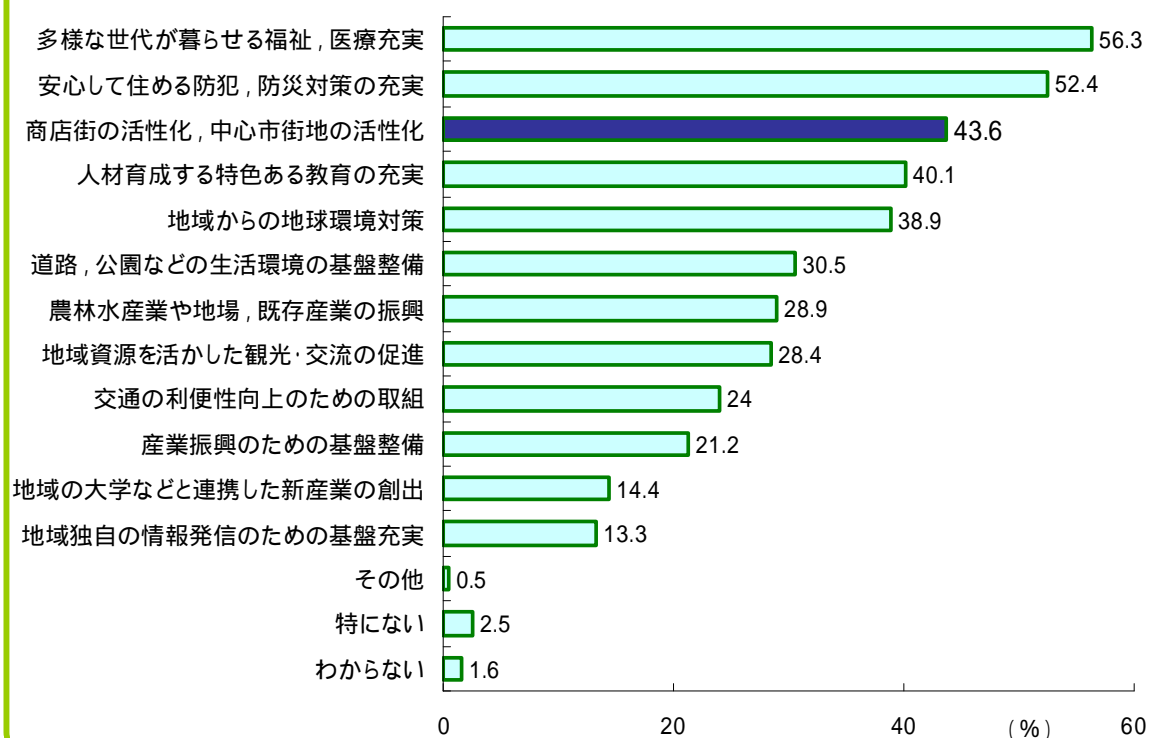
そして、忘れてならないのは車を運転できない高齢者や障害者にとってロードサイド店よりも地元商店街で買い物ができるところが、安全で安心に溢れたまちであるということです。

車社会を想定した今の生活が、人口減や高齢社会によって崩壊する日もそう遠くないといっても過言ではありません。その時に地元商店街が消えていたというのでは遅いのです。

「ひらり」で商店街の活性化を

それは困難で遠い道のりですが、手をこまねいているわけにはい

図6. 地域が元気になるために期待する施策



資料：内閣府「地方再生に関する特別調査」2007年

きません。枚方には他市にはない地域通貨が資源として保有されています。それを「商店街の活性化」ひいては元気のある「まちづくり」にぜひ活用してもらいたいと熱望する次第です。

「ひらり」が使える協賛店数

なお、現在、ひらり協賛店数は下記商店街の151店舗数ですが、さらに協賛店舗数を市内全域に拡大していくことによって、「ひらり」使用の利便性を高くすることに、ひらりの会は取り組んでいます。

協賛商店街と店舗数

- 牧野駅前商店街... 23店舗
- 牧野本町商店街... 35店舗
- 宮之阪中央商店街... 56店舗
- 長尾台商店街... 37店舗

《 商店街の景観づくりに協力した事例 》

空き店舗のシャッターにペイント

牧野本町商店街振興組合からひらりの会に「空き店舗にペイントをして、明るく楽しい通りにしたい」という依頼があり、それを大阪府立牧野高校美術部にお問い合わせをしました。
生徒のオリジナルデザインで2日間をかけてペイントに取り組み、明るくきれいな通りに生まれ変わりました。
終了後、商店街の理事長から高校生にお礼の「ひらり」が手渡されました。



ペイント前



制作中の牧野高校生



完成した店舗シャッター

§ 最後 に

地域通貨ひらりは、市民同士の“ちょっとしたお手伝い”に限定されるのではなく、そして、ひらりの会固有の資源ではなく、「まちづくり」に取り組むすべての団体において採用されるならば、その取り組みを促進させ加速させていくことができる手段になります。

また、多くの団体で採用されて多くのボランティアに「ひらり」が普及・拡大できれば、協賛店の買い物に使われることが増えて協賛店の元気を呼び戻すこともできます。

たった1枚の「ひらり」が、“人と人とのつながり”を拡大し、ボランティア活動を活性化し、そして市内商店街を復活させる、そんな力を秘めていると私たちは考えています。全国には多種多様な地域通貨がそれぞれの地域で活躍していますが、このような多面的に相乗効果が期待できる地域通貨は数少なく、枚方市の誇れるこの資源をぜひ市民全体で共有し、有効にかつ積極的に使われる日が来ることを期待し願っています。